

一般社団法人

# 日台政策研究所会報

第3号

2021年

11月20日発行

## 目次

### 【講演録】

2021年に急浮上した「台湾」の存在感 海峡有事に日米はどう備えるべきか	河崎真澄	1
台湾高速鉄道の新幹線技術導入の経緯、運営の現状および課題	大谷昌弘	19

### 【資料紹介】

2021年上半期に台湾で可決された法律一覧	高橋孝治	23
-----------------------	------	----

### 【特別寄稿】

新型コロナウイルスワクチン接種、本院の取り組み	洪有錫	28
-------------------------	-----	----

### 【連載】

台湾随想1 台湾の大学	中澤信幸	31
-------------	------	----

### 【活動報告】

33

### 【第9回セミナーのお知らせ】

34

### 【会員紹介】

35

### 【事務連絡】

36

### 【編集後記】

37

## 2021年に急浮上した「台湾」の存在感 海峡有事に日米はどう備えるべきか

河崎真澄

産経新聞論説委員兼特別記者

### 1 産経新聞『毛沢東秘録』と『李登輝秘録』

今日は、お題を頂いたのが、松尾代表理事にもおっしゃって頂いたように、台湾の存在が急速に急浮上してきたという話をさせていただきたいと思います。

おもに前半、中国の話、後半、台湾の話なんですけれども、毛沢東秘録というのは、実は1990年代の後半に産経新聞に連載していた「毛沢東秘録」という記事があって、その文庫本が、先日、今年初めかな、出ました。そこに「まえがき」と「あとがき」を書かせていただいたというご縁があって、今回、主に人物像に焦点を当てて考えてみようと思っています。

『李登輝秘録』、先ほど紹介させて頂いたように、2020年7月に、この本を出したところなのですけれども、ありがたいことに台北でも前衛出版社さんというところから、来月中国語版を出して頂けることになりました。ありがとうございます。

### 2 強権独裁と戦狼外交へ牙をむいた習近平体制

中国の話は皆様もご存知のことなので、さらっとだけ。この三つのポイント（中華民族偉大復興、国内での人民弾圧、対外的な強行姿勢）は、国内向け、対外向け、キーワードとしては、中華民族の偉大な復興と言っているのですけれども、中国の海警局ですね、コーストガードの船も武器を持つに至った、これが2021年の2月1日からのことでもあります。いずれにしても、強権独裁と戦狼外交というものが牙をむいてきたということは、皆様ご承知の事態です。これは特に今年になってから厳しい事態。先日も中台の中間線をまたいで台湾側に侵入してくる中国機が28機でしたか、かなり増えてきて、危機感が高まっているという状況です。

### 3 「逆さ地図」に見る中国海洋進出の“障害”

これもよく見る逆さ地図、中国を下に置いて、日本や沖縄、台湾、フィリピン等々を見るところになっているという。特に台湾海峡は狭くて、中国から見ると、ここが一番ほしいというふうに見えるところだと思います。台湾の、その地政学上の重要性は、ますますもってわかるのですが、尖閣にしても沖縄にしても、この地政学上の重要点というのは、忘れてはならないと思います。たんに頭の中だけの中国、台湾、日本とかということではなく、距離的な近さ、地政学上のジオポリテックス、非常に重要な鍵になると思われれます。

#### 4 習近平とはどのような指導者か

先ほど申し上げた『毛沢東秘録』という本で、ここで私はどういう風にしたかということ、この本の表紙の帯のところに毛沢東になりたい男、習近平と書きました。ここは簡単にだけ申し上げたいのは、習近平って、いったいどういう人なのか、という時の私の認識としては、鄧小平を否定している、毛沢東になりたい、ここは細かい説明はしませんけれども、いずれにしても毛沢東時代に回帰したいのが習近平であるのご認識下さい。

その前段階として、鄧小平は否定しているということです。これはどういうことかということ、鄧小平というのは今思うと意外といい人だったんじゃないかなと。いい人と言ったらちょっと語弊があるんですけど、今思えば、鄧小平は非常に卓越した政治家であったなあというふうに思われます。つまり、その独裁時代の毛沢東、独裁政権としての毛沢東時代をどう否定して中国という国をどういうふうにもっていくか。特に、独裁体制はやめて集団指導体制に移行すると、ここにすごく力を注がれた政治家であったと思います。もちろん一国二制度の中英合意でサッチャーをうまく丸め込んだとか、あるいは天安門事件の弾圧とかも、今思えばたいへんな事件でしたけれども、そういった負の面はたくさんあるにせよ、今思えば、鄧小平は立派な政治家の一人であったと考えています。

#### 5 毛沢東時代を否定した鄧小平

是非皆様YouTubeとかで検索して是非見て頂きたいんですけど、私も見てびっくりしました。<sup>注</sup>1974年の4月に国連で鄧小平が国連で演説をしていて、「もし将来中国が覇権国家になり、他国を威嚇したり侵略したりすることがあれば、世界の人々は中国を社会帝国主義とみなし、中国人民と一緒に中国を打倒してください」ということを、はっきりと国連の大会議場での演説で、1974年に鄧小平がいています。つまり、鄧小平はいずれ中国が力をつけると、覇権的な行動に出るであろうということを予測していたということですね。この演説、YouTubeにすぐ出てくると思います。是非お探しになってみてください。

世界人民は、本当に中国を倒してくださいと言っている。どこまで本気で言ったかわかりませんが、政治家としてここまで踏み込んでいえるというのは、まあ、今の感覚では、ちょっと、今の中国の政治家にはできないことだと思います。

注) YouTube : 中共前領導人鄧小平1974年在聯合國大會登台演講

<https://www.youtube.com/watch?v=XFj5Hc0d-Uw>

#### 6 中国「三つの100年」を最後まで手中に収めたい男

中国の話はこれくらいにしておきますけれども、その習近平をどういうふうにするかということですが、中国「3つの100年」を最後まで手中に収めたい男と書きました。これは、来月、中国共産党創設100年、その後2027年、人民解放軍創設100年、それから2049年に中華人民共和国成立100年というのがあります。中国の方としては100年っていうのは大変重要な記念日になってくると思われます。2049年10月の段階で、この習近平さんが、計算してみたら96歳、もしご存命なら2049年、ここに書きましたようにご本人としては、最高権力を握ったまま、96歳で三つ目の100年というのを祝いたいと思っているのではないかなと感じています。

## 7 そして台湾 麗しの島 FORMOSA

ここから本題の台湾のお話です。

麗しの島フォルモサと書きました。たまたま台北に住んでいる親しい友人がですね、数日前に綺麗な写真を送ってくれまして、プルメリアの落ちた花を公園に綺麗に並べたんです。プルメリアの花って、この季節の台湾のきれいな香りとともに、美しいイメージを持っています。なかなか台湾に帰れない日々が一年半以上続いていますけど、こういう写真を見ると心が救われる感じがいたします。



## 8 存在感が急浮上した「台湾」、この2ヶ月間のできごと

さきほど中澤先生もご紹介頂いていたように、この後2ヶ月ですね。本当にわずか2ヶ月のことですよ。日米首脳会談、4月16日、それからG7サミット、その間に日本政府のワクチン供与、それからアメリカ空軍機の台北飛来。これはもう、長年台湾を見ている我々、皆様もそうだと思いますけれども、国際社会の中で台湾の存在感が、これだけ注目され高まったとか、もう歴史上かつてないことであると思います。ましてや、日米首脳会談、G7、台湾海峡がこれだけ言及されて、世界で注目を集めて危機感を共有しているのは、歴史上ない、大きな出来事だと思ってます。それも、わずか、この2ヶ月のことですね。このことを、今非常に重大な時期にある、台湾にフォローの風が吹いていると私は認識しています。

## 9 東日本大震災の支援への「返礼」として日本が台湾へ異例のワクチン無償供与

これは皆様もご存知のように、6月4日に日本政府から台湾に無償供与されたワクチン124万回分のワクチンが成田空港から日本航空のフライトで行く時に、台湾の代表謝長廷先生が、深々とお辞儀をして送ったと、本当にこのワークチームの話は、日本外交として過去にないスピード、こんなにスピード決断ができるんだったら早くやっておけよというぐらいですけども、ひさしぶりの日本の政府としては、素晴らしい成果であったなと思います。もちろん安倍首相はじめ岸防衛大臣や、台湾プロジェクトチーム（台湾PT）の佐藤議員とか、もちろん台湾側の方、それから、アメリカとの連携プレーとか。

この辺の事情は先日の台湾の「リンゴ日報」だったかな、野嶋剛先生がインタビューお書きになられていましたけれども、様々な関係プレーがあってやっと思えたということだと思います。これは非常に良かったなと思っております。もちろんワクチンだからというわけじゃないんですけど、台湾の国内では反作用もあって、一部にさまざまなご意見があり、あるいは、必ずしも100%歓迎ではないという動きがあることも承知しておりますが、ただ、これまでにない、ここ数十年このようなこと、こんなに短期間の内に政治決断できたというのは日本と台湾の関係も急速に変わってきている、あるいは日本の立ち位置も急速に変わってきていることの証左であると思います。

それから6月4日、何の日ですか。1989年6月4日、ちょうど天安門事件が起きた日、JAL809便1989年6月4日、偶然の一致だと思いますし、それこそ野嶋さんも謝長廷さんにこれは偶然ですかと聞いたら、もちろん偶然ですとお答えになっていたようですけど。

当初の到着予定時刻は2時40分。台湾の中国時報の、当時は右から見出しを書いていたね、中国時報の1989年の号外によると、明け方の2時40分に天安門事件が起きたと。台湾の方、こういうのを見つけるのは、すごい上手いですよね。6月4日はもちろん想像がつきましたけど、809便と2時40分までは全く想像が付きませんでした。午前と午後の違いにせよ、これだけ符合しているのは時空を超えた号外であるというような言い方をしておりました。これは、本当に台湾のジャーナリズムの面白いところだなと思って感動いたしました。実際、フライトがかなり早くですね、一刻も早く届けたいというJALの気持ちがあったのか、私がテレビ見た感じだと午後1時58分ぐらいにランディングしていました。2時40分を避けたのかもしれませんがね。

それから台湾の蔡英文さんがちょっと困ったような表情をしてらっしゃるのは、2007年の5月12日でしたか、四川省の大地震の時に、このときも200億円相当以上の金額を義援金として寄付されたけれども、お返しは軍事脅威だったと。それから2011年3月11日の東日本大震災の時に台湾からも200億円をはるかに超える義援金を送ったところ、日本からはワクチンが届いた。この差は何だというのが、この蔡英文さんの仕草に表れているのかなと思います。台湾のメディアって本当に面白い、すばらしい表現をされるなどおもっています。我々からすれば当たり前のことですが、ありがたいなと思っています。

ちょっとこれも冗談話になるのですが、たまたま先日、高校時代の同級生の主婦の女性と話をすることがあって、台湾に日本政府が送った124万回分のワクチンなんだけれども、日本はアストラゼネカは使わないんじゃないのか、余ったやつをなんかあげているみたいで失礼なんじゃないか、それを台湾の人にあげるなんて、なんなんだと。ましてや台湾であまり歓迎してないっていう人もいるらしいよ。どうなんですかって私に聞かれたんで、いやまあ確かにそれはいろいろあるけれども、何て答えようかなと思った時にですね、あの2年前に山形でちょっとお話しさせていただいた時も、ちょっとこのドラえもん話をさせていただいたんですけれども。

例えばですね、これ本当に冗談話なんですけれども、ある時、このジャイアン君が町中を自転車で走り回って、同級生達が次々とぶつかっていく。みんな怪我して、ドラえもんも、のび太もしずかちゃんもスネ夫君も、皆けがして、ジャイアントどうしたんですか。どうして、皆にぶつかって怪我させるの。「俺が悪いんじゃない、自転車がちょっと調子悪くて壊れてるんだ。もしかしたら外人が俺んところにきて、自転車を壊してったのかもしれない。俺が悪いんじゃない。自転車が悪いんだ。」というジャイアンがいたわけですよ。のび太くんは非常に困って、けがしちゃって。ドラえもんも大きな怪我をした。しずかちゃんもけがしちゃったんですけど、(のび太はしずかちゃんを)本当はすごく助けたかったんですけど、のび太くんの家の2階に住んでるおじさんがいて。で、おじさんが、「のび太、お前、俺は2階に住んでるけど、ジャイアンの家からいろいろお金をもらったりしてるから、しずかちゃんを助けたら許さんぞ。」みたいなこと、2階のおじさんがいうわけですよ。だけど、のび太くんは、随分前に自分が転んだ時にしずかちゃんに助けてもらったこともあるし、勇気を振り絞って、「ドラえもんどうしたらいい。じゃあ、一緒に僕たち、みんなしずかちゃんを助ける。」しずかちゃんの治療できるわけじゃないんですけど、ドラえもんとのび太で絆創膏とかちょっとした薬を持ち寄って、大丈夫か、俺たちがついてるぞというふうに励ましてくれたんじゃないのかなって、私はその女性に解

説しました。たぶんしずかちゃんのおたくは、ジャイアンからすごく嫌われていて、あんまりクラスの中でも、どちらかと言うと、みんなに冷たくされていた。ある意味でドラえもんとかのび太がわずかな絆創膏だったかもしれないけれども、助けに来てくれたことがすごく嬉しかったじゃないかなと申しあげました。だから、気持ちの問題なんですよ。なんていうんでしょう。自転車が本当に壊れていたのかもしれないし、彼自身そういうジャイアン自身がどこまで本当に悪かったかは分かりませんが、やっぱりそのけがをさせてしまったドラえもんとか、のび太とか、しずかちゃんとか、他のクラスのみんなに謝罪もなく、ましてや別のクラスの子には、俺、お前に絆創膏をやるから俺の子分になれというようなことをいっている訳ですね。ジャイアンがね。まあ。そういうようなことを考えると。同じクラスにいるわけなんで、仲良くしなきゃいけないんですけども、やっぱりしずかちゃんを我々はしっかり守っていく必要があるんじゃないかなっていうふうに思っていますし、しずかちゃんもそのことはよく分かってきている。

もちろん124万回分のワクチンですべて台湾を救えるなんて思っていませんけれども、やっぱり、そこは、謝長廷大使もおっしゃってますけど、善の循環ですよ。お互いの日本と台湾の善の気持ちというの循環するまわりまわっていくという昔ふうの言葉でいえば、お互いさまってことなのかもしれない。善の循環ということが起きているし、のび太も今一つ力が弱くてですね、なにか困ったことがあると、すぐドラえもん助けてとか言って、ジャイアンが池の庭のちっちゃい島をとって攻めてくるんですけど助けてみたいなこと言っているわけですね。

なかなかスネ夫君というのもちよっと困った男で、ジャイアンの側にくっついて、のび太に、いつもいじわるいつてくる奴がいるんですよ。これは、まあしょうがない。だいたいどこの学校のクラスにもこういう子たちは一杯居るわけです。まあなんとしても、しずかちゃんがみんなと同じようなクラスの同じ立場、同じ地位になって、それで、本当に同じ立場として、同じクラスメイトとして、みんなと一緒に仲良くできる時代が来ることを望んでるわけなんですけど。

どこまで友達の主婦が理解してくれたかわかりませんが、「まあそうなの、まあそうなのかね。」とおっしゃってました。のび太のママは蔡英文さんみたいな感じがするんですけども。

いずれにしても、とはいっても小学校でもあるような人間模様というのが東アジアにあるっていうのは、これは面白いなあと思うんですよ。あともう一人ぐらいうとね、勉強もできるスポーツ万能の出木杉君というのがいるんですけど、これはシンガポールくんに似てるかなあっていう感じしているんです。すみません、ちょっと冗談がすぎました。

## 10 1999年9月23日の台湾中部大震災で日本救援隊

### ドラマ「路」で語れなかった日本連合による高鐵の逆転受注劇

さて、ワクチンの話で今回、日本政府として十年前の東日本大震災の義援金に対する御礼の意味もたいへんあるんだとおっしゃって、それはもちろんそうなんですけど、じゃあなぜ2011年の時、あれほど台湾の方が日本に支援して下さったのか改めて考えているんです。

これはご記憶だと思いますけど、1999年9月23日、台湾中部大地震、これも2万人くらい

の方が死傷されて、大変な被害がありました。これはたまたま日本の救援隊が活動してるところに李登輝さんが通りかかって、「あんたたち日本人か。」「はい。」と行って、ここで、「ありがとう。」と言って、感謝を捧げたいです。たまたま私の同僚がその場において撮った貴重な写真ですけど、李登輝さんこのときのことを本当に感動したと、日本と台湾はもちろんそれまでも深い関係はあったけれども、この時初めて、心が益々つながったとおっしゃってましたね。ちょっと話が長くなっちゃいますけど、救援隊の方の活動がすごく台湾の方々の心を打ったといろんな方がお話になっていて、そのエピソードはたくさん御座います。多分このときの記憶というのがあって、やっぱり困った時に最後助けてくれるのは日本なんだと台湾の方々はこのときに思ったとおっしゃってました。これはありがたいこと。この時に生まれた絆というのがあって、2011年に繋がったんですけど。



1999年というのは、ちょうど台湾の高速鉄道の車両機電システムの国際入札が行われた、丁度そのタイミングだったんです。もともとはヨーロッパのTGV等のヨーロッパ勢がもうほぼ受注を確実にしていたタイミングに、たまたまこの地震が起き、まあ地震が取り持つ縁というのもちょっと変なんですけど、やはり耐震性の強い非常に地震とか災害に強い日本と同じような技術が台湾にあるべきではないかという機運が台湾でも高まったと聞いています。これで、1999年の12月17日ぐらいだったと思うんですけど、当時私、経済部の記者で造船重機とか電機とかそういう業界を担当してまして台湾新幹線の話も、いろいろ取材をすることができて、12月の初め、中旬ぐらいだったかな、日本連合逆転受注へって言うのを、当時、産経新聞の一面トップに書いた記憶があります。実際その一週間後ぐらいに逆転受注したということがありました。したがって地震というのはたいへん不幸な事件ではあったんですけど、その度ごとに日本と台湾は非常に深く深くお互いの災害があるたびに心を通わせてきた。あるいは台湾新幹線は、ユーロの現在車両の導入で現在トラブルもあるように聞いていますけど、それでも、やはりいろいろなトラブルとか災害の中でもお互い助け合ってきたって言うことは歴史的な事実。従って、今回のワクチンについても、たまたま10年前の地震だけではない、それ以前からのそのつながりがあったということも言いたかったんです。

## 11 米空軍の輸送機MD C-17が異例の台湾訪問 6月6日

またワクチンに戻りますけど、これは、やっぱり鍵なのは、アメリカのワクチンも到着しはじめていますけれども、このとき2021年6月6日にアメリカの空軍機がですね、韓国の米軍基地から飛来して、台北の松山空港、松山空軍基地に着陸するわけです。日本のワクチンの124万回もニュースかもしれませんが、個人的には、こちらの方が大きな安全保障上にとっては重要なニュースかもしれませんが。去年の今頃だったと思いますけれども、中国の人民日報系の新聞「環球時報」は、社説で米軍機が台湾に来れば、即刻武力行使を行うというような厳しい言い方をしていました。輸送機でしたけど、れっきとした米軍機が台北の街中のど真ん中の松山空港にどんと、民間、それから軍の併用空港ですけどね、到着するわけです。とくに中国側はなんの行動もとれなかった。これは何なんだろうかということでもあります。

## 12 台湾が国際社会で認知された3つの理由

長くなってすみません。これも、すごく言いたかったことなんですけど、なぜ台湾がこれだけ急浮上したのかっていうので、3つの理由をあげました。先ほど、中澤先生にイントロでご紹介頂きまして、三つの理由があると思っています。

まず去年の蔡英文総統の再選なんですけど、当然、台湾の民主主義が熟してきて、7回目の直接総統選挙でという話なんです。この時に2019年の香港では共産党政権の弾圧が強烈になってきたわけです。その中で台湾にも危機感があって、世界の目は、もう台湾と香港に釘付けになっていたんですね。しかし、その中で台湾は、ちゃんと直接総統選挙して蔡英文総統が57パーセントの得票率で再選されたんだというニュースが世界中の人を驚かせるわけです。ですから、香港と台湾に世界の目が釘付けになっていた。

2番目。これは新型コロナウイルス。台湾的には武漢肺炎というふうないうんですけど、これはジャイアン君じゃないですけど、感染源は共産国家の中国であった。それに対して台湾は必死に守り抜いた。防疫に成功したのは台湾であった。感染源の中国、守り抜いた台湾。この差はなんだということを世界の方々が認識した。英語で言えば、中華人民共和国Peoples Republic of China ですね。それから、台湾が使っている国号の中華民国 Republic of Chinaというのは、欧米の方からすると、何が違うんですかっていうことになります。お宅もチャイナ、こちらもチャイナですよっていう風に欧米の方からは認識されることが多かったんですけども、今回の新型コロナウイルスの問題によって明らかに共産国家の中国と、守りぬいた台湾、違いますよねということを認識した。

## 13 「ミスターデモクラシー」戦後台湾で独裁政権を民主化した李登輝

さて、そこで、いよいよ李登輝さんの話なんですけど、そうこう言っている時に世界が香港と台湾の問題に注目し、それから新型コロナウイルスの問題で中国どうしてるんだということをして、それから去年の6月30日に香港国家安全維持法というのが出来て、一国二制度もほぼ崩壊の危機になっているという状況の中で、7月30日に李登輝さんが97才で亡くなるわけです。

私はもう、李登輝さんて本当に自分がなくなるタイミングまで最後の最後まで自分で図ってなくなったじゃないかと思われるぐらい、素晴らしい、素晴らしいと言っては失礼な



んですけれど、そんなタイミングでなくなるなんてことありうるのかと思いました。その後の弔問外交でそれが証明されていくわけです。

ここだけ後ほどお話しすると、『三国志』に出てくる死せる諸葛孔明、生ける司馬懿仲達を走らすという故事がございますけれど、死んでなお、亡くなってなお、ミスターデモクラシーの台湾のために役割を果たされたというふうに私は考えています。本当にこのタイミングで亡くなるかなあということですよ。

弔問外交のところでご記憶のように、日本からは2回、森喜朗元総理が弔問にかけつけられ、アメリカからは8月にですね、1979年の米対断行以来はじめて現役の厚生大臣が台湾を訪れたんですけども、それはまあコロナだけの話じゃなくて、米台の経済対話のスタートですね。そういう実務的なこともされました。その後、李登輝さんの正式な告別式の時に、9月17日の告別式の時には、アメリカの 국무省のナンバー3が実際に弔問に訪れているんです。したがってこのときの弔問の結果および森喜朗先生の日本による弔問、これは台湾にとっては卓越したあの二つの弔問外交だったと思うんですよ。このことが多分、今回の日米首脳会談それから、G7サミット、それからワクチンの供与ということの基礎になったことは、もう間違いないと思っています。

ですから、ワクチンも突然降って湧いた話ではなくって、多分、李登輝さんからの弔問外交から既に始まっていたと考えるのが自然だなと思っています。

お話したいことは山ほどあって、申し訳ありません。

ここはお読みの方はもうおわかりのことばかりで、一点だけ申し上げると、本当に『李登輝秘録』っていうこの書籍を書かせていただくようになったというのは記者冥利に尽きるというか、人生こんなにありがたいことはあったのかと思います。2002年に台湾に台北に赴任して以来、もう本当に偶然の結果、李登輝さん、そのときはもう退任されて2年経っていらっしゃいましたけど、李登輝さんに深くお付き合いというか取材させて頂く機会を頂いて、18年間さまざまな形でお話を聞くことができたのは、人生最大の喜びだったなと思っています。

その中でいろんな、いろんなことがありますけど、一点だけ、唯一ここでちょっと強調したいなと思ったのは、中華皇帝と中華思想の呪縛から解き離れて民主化しなければ、台湾の発展など望めないということを、李登輝さんよくおっしゃっていましたよね。要するに蒋介石、蔣経国という風にそのまあ、世襲で進む独裁政権ということは、中華皇帝の数千年やってきたことと変わらないんじゃないか。中華思想、私たちは世界の中心の中華だなんていう中華思想の呪縛にさいなまされているうちは、民主主義なんてものはできませんと言うことを、李登輝さんは強くお考えになっていた。このことは多分台北高等学校、京都帝大、それからアメリカのコーネル大学の博士号とかそういった高い海外における教育にも拠るんだろうとおもいますが、哲学者としての、学者としての、あるいは日本精神を強く持たれた李登輝さんの神髄であったと思います。

## 14 戦前の高い日本教育を受けた李登輝

### 日本人の誠實自然と実践躬行を愛す

これは皆さんよくご存知のように、李登輝さん、親日家、愛日家の李登輝さん。



これはたまたま李登輝さんのお宅に行ったときに、湯呑みですね、ちょっとみえますか。「日常五心」、ありがとうという感謝の心とかいう湯飲みを出して、これ、このまえ石垣島で買った、いや僕一緒に行きましたよと。これが日本人の気持ちなんだよっていうことをおっしゃる。もちろん、武士道のことも日本精神の話もされる、いろんな死生観の話もされる。本当は日本人の死生観と中国人の生死観というお話もしたいんですけども。まあ死ということとは、どういうことか。いろんなお話をされました。これは本当に、一体日本人とは何なんだ、台湾人とはなんなんだということを多分生涯お考えたになったんだと思います。

われわれも李登輝さんを通じて、一体日本人とは何なんだ、台湾人とはなんなんだということを考えた非常に素晴らしい先達の方であられたんだなと思います。

これは2002年の秋に慶応大学の学園祭に呼ばれたんですけども、日本政府がビザを発給することがなくて、いけなくなったあと、しばらく立った後、日本の外交を憂えてのことだと思いますけど、日本が力をふるえずに停滞している姿を見るのがつらいということをおっしゃった。その前に。あのビザが出る前、日本政府の肝っ玉はネズミより小さいとかおっしゃっていました。ある意味で日本に対する期待と不安、失望と希望みたいなものがないまぜになっていたんだと思います。これもなくなるまで日本のことを大切に思っていてくださったことはまちがいない。

## 15 台湾に5人の李登輝がいる！

ちょっとここに書いたのは、台湾に5人の李登輝がいるっていう風に書きました。これは影武者の話ではございません。

- 1 : 日本語で考えて行動する知日派
- 2 : 北京語で権謀術数の中華政治家
- 3 : 英語で考えて行動する外交手腕とクリスチャンとしての宗教観
- 4 : 台湾語で話し台湾全土を回った根っからの台湾愛と農民の味方
- 5 : 客家人、忍耐力の強い頑固一徹  
アウフヘーベンする現実主義者

これは亡くなったあと、改めて考えたんですけれど、李登輝さんて不思議な方で、我々よく知っている1番、日本語で考えて行動する知日派の李登輝さん。

これはみなさんよくご存知の李登輝さんのお姿で、日本人は胸を張れとか、叱咤激励してくれる温かい私からいわせると、日本人の理想の父親像の李登輝さんの姿。

ところが2番、北京語で権謀術数の中華政治家って書きましたけれど、これは『李登輝秘録』にも書きましたし、みなさんよくご存知だと思いますけれども、例えば先ほど松尾先生のご紹介もあった本省人と外省人の話です。

外省人で参謀本部長であった郝柏村という軍の実力者がいらっしゃって、李登輝さんにとっては政敵であった。李登輝さんは色々考えたんでしょうね、蔣経国から受けた政治の帝王学でもあったのですけど。この郝柏村が牛耳っている限り、この軍隊は国民党の軍隊から台湾の国の軍隊にはならないだろうと考え、この郝柏村、どうやって排除すべきかって考えた時に、郝柏村を、「郝柏村先生、あなたはたいへん優秀な方なので、国防大臣になって頂きたい。」「そうですか。」郝柏村さんは、俺もえらくなかった、閣僚になれるんだ。国防大臣。しばらくするとですね。「あなたは素晴らしい。首相、行政院長になっていたください。」「行政院長ですか。」「プライムミニスターです。」と。郝柏村さんはよろこぶんですけれども、行政院長は当然軍籍も剥奪されますし、軍に対する影響力もなくなる。そこで行政院長になった郝柏村はどうなるかということ、いろいろスキャンダルもたくさんある、それから当然台湾のマスコミも野党の追及も激しいということでスキャンダルにまみれて結局辞任せざるを得なくなっていくわけですよ。その郝柏村という政敵を追い落としたこのプロセスというのは本当に、我々日本人では想像のつかないやり方であったと思います。

これは余談でここだけの話になるんですけれど。昨年、安倍晋三総理が習近平国家主席の国賓来日をわりと推進されていたときがあって、多分、私は安倍さんと李登輝さんとは師弟関係にあると実は思ってるんですね。この話は別の機会があればさせていただきたいんですけれど。多分、李登輝さんの権謀術数のやり方を日本にも応用できるんじゃないかなというふうに考えたんじゃないかなと思うんですね。先ほど名前が出てきた、のび太くん家の2階に住んでるちょっと気難しいおじさん。ジャイアンと仲のいい2階に住んでいるおじさんをどうやって追い落とすかということのを安倍さんは考えたんじゃないかなと私は想像しています。それから先のストーリーはまた機会があれば、お話しさせていただきます。

それから3番目。英語で考えて行動する外交手腕とクリスチャンとしての宗教観。

これはもちろんコーネル大学での博士号。これはアメリカ人の方からすると大変なステータスが高い。それから李登輝さんのコーネル大学での農業経済の博士号論文というのは、当時の農業経済学論文集で多分トップを取られたのかな、大変有名な注目された論文であ

ったということだそうです。したがってアメリカの政財界の方、あるいは農業経済とか学会の方も含めて、ドクター・リーというのはすごい男だな。しかも、ミスターデモクラシーかということですよ。英語での発想というなかで、当然洗礼を受けられて、敬虔なクリスチャンであられた李登輝さんの宗教観と非常に重要になってくるはずですよ。ですから例えばアメリカ人の方からすると、こいつは信用できるという言い方、言葉はよくないですけども。

例えば、ブッシュ大統領、おやじの方のパパブッシュは、少なくともわかっている限りで2回台湾を退任後に訪問されていて、李登輝さんとゴルフをしてらっしゃる写真とかも残っています。『李登輝秘録』の中にも写真を入れたかなと思いますけれど。そのときに台湾とアメリカの間でつくった水面下の情報交換ルート。そこに李登輝さんご自身は、アーミテージさんに頼んだんだといういいかたをされますけれども、いろんなその方々の起用があったが思ったと思います。そういうその外交関係がない中で外交関係を作るかという時に李登輝さんの日本教育、日本留学の経験、アメリカのこの経験は、台湾のアメリカと日本に対する外交のものすごく重要な役割を果たしたと、私は思っています。そのなかでも特に欧米社会に対してクリスチャンとしての信頼性が非常に大きかったと思いますね。

4番、台湾語で話し、台湾全土を回った根っからの台湾と農民の味方。

これは、台湾の方、よく映像なんかでご覧になっていると思いますけど、台湾語・閩南語でお話になるときの李登輝さん、隣に住んでいる気のいいおじさんという感じですよ。特に農業関係の政府の仕事をされていたとき、それは台湾省でも中央政府でもそうなんですけれども、ほぼ全土の農地をあちこち回って、どこの農地でどんな作物がどういうふうにとれて、それから灌漑用水がどういうふう流れて、どういう水があって、この季節はどこでどんな災害が起こりやすいかっていうこと、現地を見て、いろんなことを、直接ご存知なんですよ。それで、地元の農民と直接、あんた今年はどうなんだというようなことを台湾語で話されて、あるいは漁民のかたとも、今年の鮪はどうなんだ、魚はどうなんだ、そんなようなことをお話しになったんだろうと思うんです。本当に庶民の味方を演じることができた。これは演じるというより本音の話だと思うんです。

さて、5人目の李登輝さん。これは言葉の問題ではないんですけど、私は客家人の李登輝さんというの、これもまた別人格かなと思ってるんですけど。ここに書いたように忍耐力の強い頑固一徹、アウフヘーベンする現実主義者と書きました。

これは、先ほども出てきた鄧小平、客家と言われてますよね。それ以外にも孫文とか宋家の三姉妹とか葉劍英とか、リー・クアンユーとか、いろんな客家の有名人ってありますけど、客家の方ってある意味厳しい環境の中で、いかに堪えるか、いかに生き残っていくか、サバイバルできるかDNAに刻み込まれているのではないかと思います。アウフヘーベンするというのは、よく李登輝さんアウフヘーベンするんだって、これは哲学用語ですけども、特に李登輝さんがおっしゃっているのは、現実がある、理想がある、ずいぶん違う。例えば独裁政権が現実にある。国として認められていないし、国連にも入れない独裁政権がある。一方で、理想としては、のび太君とかスネ夫君とかでもいい、同じ立場の、同じクラスメイトになりたい、理想の国を作りたい。でも今すぐには理想は実現できない時にどうしたらいいんですか。第3の道はないのかというのがアウフヘーベンだと思うんですよ。

現実的に、それをどう生き延びていくために、李登輝さんが言っていたのは、2300万人の台湾の人たちがまず生存して生き残って繁栄していくことが大事だ。その先いかに理想を現実のものに近づけていくか。まずはアウフヘーベンしていくべきであろう。多分、鄧小平を今思うと、香港返還の時の言い訳かもしれませんが、一国二制度ってのをやりましょう、これもひとつのアウフヘーベンだったかもしれません。

いずれにしてもこの5人の李登輝というのは、同じ李登輝さんの中に内在している別々の発想、多分、ですから使う言葉とか場面によって仰ってる内容とか、あるいは態度とか、雰囲気とかも随分違うんですね。北京語で話してる時の李登輝さんと、やっぱりなんか、日本人からするとちょっと違和感がある感じですけども、台湾語でお話になっている李登輝さんは、本当になんか、ほほえましい、やさしい感じがいたしますね。

客家人の強さ、これは司馬遼太郎さんも客家については書かれていましたんで、司馬遼太郎さんの1995年ぐらいだったかな、『台湾紀行』という本で、これはぜひお読みいただければと思います。司馬遼太郎さんは李登輝さんが司馬さんに、司馬さん、ぼくは客家なんだという言い方をしたことを、司馬さんはすごく感激して、話し方そのものは日本の旧制高校生そのものなんだけど、「客家なんだ」という話のアンバランスさにすごく司馬さんは、感動されたんだとおもいますね。これが面白いところだと思います。

## 16 米国政治学者サミュエル・ハンティントン

これは細かい話ですが、シンガポールのリー・クアンユーさん、まったく李登輝さんと同じ年、1923年生まれ、亡くなられましたけれども、リー・クアンユーさんも客家のお生まれだそうです。結果的に、最初は仲良かったんですけども、1994年ぐらいから袂を別ったと聞いています。台湾の民主主義は、李登輝亡き後も継続するが、リー・クアンユーの政治体制は彼の死とともに墓場に葬られるであろうとサミュエル・ハンティントンは喝破してるわけですけども、まだシンガポールはどうなるか分かりません。まだリー・クアンユーの長男のB.G. リーというのが、リー・クアンユー王朝を続けているというのがシンガポールの現状かなと思います。この先どうなるでしょうか。

## 17 日本と台湾、この先の関係で懸念されるリスク

話が長くなってもうしわけございません。先ほどワクチンの話で、いい話ばかりしてしまったんですけども、実は日本と台湾の間には、この先の関係でちょっとリスクが三つあるなと思ってるんです。これは何とかしなくちゃいかん。

- 1 : 台湾での日本「神話」崩壊の危機 「もはや日本に後藤新平はいないのか？」
- 2 : 日本語世代の不在、李登輝なき台湾 日本人「甘えの構造」交流の言語は
- 3 : A Zワクチンへの不満、核食の拒絶 日台接近を阻みたい政治勢力や第三国

まず、台湾での日本神話崩壊の危機とかきました。例えば、新型コロナに対する感染防止対策なんか、台湾は素早い時期から強烈なスピードでやって、現在でも、かなり成功をおさめているとってぼくはいいと思いますけど、それに対して日本は、欧米よりはましですけども、だいぶ危ないじゃないか。日本に後藤新平はいないのかと、台湾の東海大

学の陳永峰先生は厳しくおっしゃっていました。

いずれにしても、あるいは、日本の経済とか、日本の世界に誇った自動車、電気、素材、その他の産業が非常に競争力を失ってきて、かつては日本語を勉強して、日本企業に就職したいという台湾の方もたくさんいらっしまったと思うんですけど、今、日本語熱もだいぶ冷めてきているし、日本の経済に対する魅力というの、大分廃れてきた。アニメとかゲームだけ、あるいは『鬼滅の刃』だけじゃね。日本の魅力というのは、削がれてきているということなんです。

これに対して、やはり日本人自身がもっと魅力的にならないといけない。つまり、もし本当にしずかちゃんが好きで、しずかちゃんと本当にお付き合いしたい。しずかちゃんにも好かれないと思うのであれば、のび太自身ももっと成長して、勉強もたくさんし、スポーツもたくさんし、ジャイアンに対しても立ち向かっていくというような、のび太自身ももっと努力しなければいけない。そこが非常に今危機的な状況になっていると思います。

2番目、日本語世代の不在。残念ながら、李登輝さんが亡くなってしまったように日本語世代の象徴である李登輝さん。97才でしたけど、亡くなられました。

例えば、終戦の時、昭和20年の時に仮に台湾で15歳まで小中学校ぐらいに日本語を勉強された方、今お幾つかなどと思って数えると、今年91歳ですよ。ですから日本語世代の方々とお話できる時間は、もう本当に残念ながら、時間は残酷なんですけれどもかぎられているということが実情です。

ここに日本人の甘えの構造とかきました。昔々、我々、読んでそうかなあと思っていたんですけども、日本人の甘えの構造ってのは今もあってですね、台湾の方と交流するときには、日本語世代の方と日本語ですればいいと、あるいは甘えの構造の中でこうすればこうしてくれるだろうというような予想のもとに、甘えが続いてきたわけです。この甘えの構造、日本人そのものが打破していかないといけない。

例えば、自戒を込めていうと我々の世代、台湾に大変お世話になった世代は、李登輝さんにしても蔡焜燦さんにしても、黄昭堂さんにしても、阮美姝さんでも、この前亡くなられた黄天麟さんでも、やあこんには、今日ちょっとお時間、お話聞かせてください。いいですよ、いいですよ、とみなさん日本語でお話していただけるんですけども。これはある意味で甘えの構造で、日本人で日本語で行けば会ってくれるんじゃないか。みたいな。

もちろん、今反省してるところなんですけれども。つまり、言語はこれからどうすればいいんですか。若い世代の言語はもう日本語で甘えて、日本語だけで台湾と交流できるって言うことはゆめゆめ思っはいけない。当然、英語では、基本的に交流しなければいけないし、できれば、台湾華語、それからできれば閩南語もやりたい。なぜかと言うと、蔡英文政権は、英語も公用語にしようということをして盛んにおっしゃっています。ある意味で、シンガポールとか香港のような先例があると考えているのかもしれない。

あえて国際社会の中で生き残っていくためには、あるいは、日米とオーストラリア、インドによるクアッド (Quad : 日米豪印戦略対話) といっって仲間に入れてもらえるにしても、これはやはり英語での共通言語が必須になっていくんですね。台湾も国際社会に認められるためには、もっともっと英語という共通言語を磨いていかなければならない。そこで日本だけが偉大なるローカル言語のガラパゴス日本語で、私、台湾の方と日本語で話したいですって言うても、これは日本だけが本当に情報弱者、言語後進国になってしまうという

ふうな危惧を持っています。

ですからこれはまず甘えの構造を捨てて、それからもっと台湾華語を勉強し、もちろん英語も勉強し、日本語は完璧にできて当たり前。英語と台湾華語を勉強し、台湾の方だけではなく、東南アジアの華僑の方とか、それからさまざまな交流ができてくると思います。したがって、この危機感っていうのは、日本の存在感が弱まっている。日本人は昔のままの発想ではいけません。

さて、3番目は悩ましいのですけれども、日本の供与したワクチンに対し、いろいろ台湾の中でもご不満をお持ちの組織もあり、難しい事をおっしゃる方もいる。もちろん100%あれで台湾を救えるなんて誰も思ってませんが、不満があることは間違いない。それはしょうがない。

それから核食と書きましたけれども、これは福島など5県ですね、まだ食品を台湾は禁止が続いています。これは反対派の人からすると、核食、つまり核物質に汚染された食品を俺たちに食わせる気かという誤解に満ち満ちた悪意も感じられる反発の言葉ですけど、いずれにしろそういう日本の抱えている問題に対して、ここに書いたように日台接近を阻みたい政治勢力とか第三国というのがあるんじゃないかというふうに想像しています。

彼ら、我々としては当然日本と台湾とが運命共同体であると言うのは明々白々のことであり、それは経済であっても、安全保障であっても、あるいは国際社会における立場であっても、日本と台湾が協力しないと、日本単独でもそうそう立ち向かっていけないし、台湾単独でももちろん難しい。でも日本と台湾がもっと協力すれば、例えば中国共産党内部に対する情報網の活用とか、それと日本の防衛力・軍事力を結びつけて、とかというように、それはアイデアですけど、そういう運命共同体というのは日本と台湾とは補完関係にあるはずですが。そうなってもらっては困るという政治勢力が台湾の中やその背後にいる中国にあって、あるいは日本と接近してもらったら困るという他の国があるっていうことは、これは事実なんです。

これらに対してどう対応していくかというのは、これは大きな台湾と日本の課題であると思っています。これに対する処方箋はまだ今のところないんですけれども。例えばワクチンの供与というような、あるいは義援金を頂くとか民間的なお話を含めて、これまで積み重ねてきたことをさらに積み重ねてゆくということが、現段階でできることかなと思います。

## 18 「台湾海峡危機」にいかに備えるべきか？

もしいま李登輝が現役総統だったら

話したいことが山のようにあるんです。もう手短にすませます。

- 1：すでに「平時」ではない！武漢肺炎は「有事」だ！情報の収集と分析と防備を徹底
- 2：民心を惑わさず、勇気をもって団結し、危機に立ち向かわせる。1996年の経験
- 3：米国と日本の水面下の安全保障情報と防衛の共有、台湾の対中防諜パワー

1番目、今、台湾海峡危機だと言われています。台湾有事の場合、日本はどうするんだという本を実は来月共著で出す予定なんですけど、李登輝さんがもし仮に元気で現役総統だ

ったらどうするだろうなと考えました。

李登輝さんだったら、もう2019年の秋の段階から有事だと、なにいつてんだと。こういう感染症が出てきたら当然有事なんだとご認識されたらと思う。2019年の10月、11月ぐらいの段階で、台湾の情報当局は、完全に武漢からのコロナウイルス問題を把握して、緊急事態を発令してらっしゃる。この情報収集力というのは台湾の強いところですから。これは有事だと、もうすでに有事は始まっているんだと。台湾海峡に飛来する中国の軍機を考えても、あるいは中国海軍の空母の台湾海峡の通過とかさまざまな展開を考えても、台湾から見て、あるいは日本から見て、現在の状況では、もう有事になっていると考えるべきであろうと思います。

2番目、李登輝さん。これは1995年から96年のことを覚えていらっしゃる方、いると思うんですけど、96年3月投票の選挙期間中に、中国から弾道ミサイルがたくさん打ち込まれました。台湾海峡とか、基隆沖とか、高雄沖とかにかなり撃ち込まれて、アメリカからは空母インディペンデンスとかニミッツとか、2隻もの空母が派遣されるという一触即発の事態になりました。そのときに李登輝さんは何を言ったか。「心配するな。中国から打ってくる弾道ミサイル、あれは空砲だ。心配するな。勇気を持って団結して危機に立ち向かえ。」とおっしゃったわけです。これはもちろんこれは確かな情報があって、あれは空砲だということを知った上で、まさにおっしゃったわけなんで、情報機関からするとそれはちょっと言われるとまずいですよ。実際、情報機関の方、何人も中国側につかまってしまったん訳なんですけども、国益を考えて李登輝さんは、多分、そこに踏み込んだんだろうと思うんです。

「空砲だ、心配するな。」とにこにこ笑ってですね、「大丈夫だ。俺についてこい。」と。こういうリーダーが日本にいますかね。仮にもし何か有事があった時に、日本の総理大臣が「心配するな」っていても、大丈夫か、ガス抜きか、みたいな感じになっちゃいますけどね。それはともかく、そういうリーダーシップを発揮するリーダーがやはり有事の時には絶対必要だろうということですね。

3番目、さっきもちょっと申し上げたように、このときにもう李登輝さんは「明德プロジェクト」というのを密かにもうスタートしていました。これは、アメリカと日本の間の水面下の情報共有システムみたいなものを作って、日本側は少なくとも知られている限り、椎名素夫先生、参議院、衆議院をおやりになった、まあそれ以外にもいろんな方の名前を李登輝さんから聞いたんですけど、ご本人に日本で会って、李登輝さんこうおっしゃっていたんですけど記事に書いていいですかと言ったら、それはやめてくれっていう元外務官僚の方が二人いらっしゃいました。名前はいいません。

いずれにしても台湾のもっている対中防諜パワーっていうのは、非常に大きなパワーがあって、どう抑止したらよいかっていうことを、我々がわからない力をお持ちになっているんだと思います。これを日本側も勉強しない手はないですよ。いずれにしても有事だという強い認識と、それから有事法制のある程度のもの、日本より遙かに強制力の強い有事法制を台湾は持っているの、そのときの危機を跳ね返すことができたんだと思います。今回の蔡英文さんの采配からすると、先ほど申し上げたように、李登輝さんが亡くなった後の弔問外交というのが功を奏して、ワクチンという目に見えない形の安全保障ではないんですけども、強いサインを国際社会に送っていると考えられます。



## 19 この数年先の「中国」の行方をどう見るか？日本と台湾は？

- ①新型コロナ対処や戦狼外交で世界の対中感情が急速に悪化  
国際社会からの信任、対外プロパガンダ戦略再編の動き
- ②香港、台湾、南シナ海のみならず、ウイグル族への弾圧で「ジェノサイド認定」はどこまで？  
北京五輪の行方と習近平政権
- ③30年前終結の東西冷戦で相手は「ソ連」、最前線は「ベルリン」  
新冷戦の相手は「中国」で最前線は「台湾」「尖閣」「琉球」
- ④バイデン米政権の対中姿勢はどこまで本気か？  
G7でもにじみ出た欧州との温度差、日本の弱腰
- ⑤「クアッドやTPPへの英国参加」で、政経両面から対中包囲網が形成されるか？  
クアッドとNATO、TPPとEU
- ⑥「香港の国際金融センター機能」はどの程度低下？相対的に日台星が浮上するのか？  
NY、ロンドン、東京に続く市場整備
- ⑦隠れ不良債権、SCMの崩壊、資本規制の堅持など「中国経済リスクは顕在化」するのか？  
不動産価格の政治維持がカギ
- ⑧「中国人民の不満」はマグマに？中国人民解放軍の対外作戦はいつ？

この先の中国ってどうなるんですか。よく聞かれる話で、昨今の世論調査を見ると、世界各国で中国に対する好感度が急激に落ちている。日本は元々好感度があまりないけれども、もう世界の国のなかで中国を過半数が好きというのはほとんど見ない。多分カンボジアぐらいじゃないでしょうか。ですから中国に同盟国っていうのがあるのかどうかということだと思います。いずれにしろコロナ問題で急速に悪化している。

2番目、ジェノサイド認定と書きました。

これ、今、一番注目しているのは、2022年の北京オリンピックっていうのは開かれるのかどうか。あるいは選手団を派遣する国があるのどうかわかりませんが、アメリカは既にトランプ政権の時にジェノサイドを認定しています。つまりウイグル族に対する大量民族虐殺をしているじゃないか。明々白々の証拠があるぞ。BBCのテレビを見たかということですね。ヨーロッパも弱腰ですけれども、いくつかオランダとかカナダもそうですけれども、ジェノサイド認定をしている。ジェノサイド認定をしている中で、オリンピックに選手団を派遣するっていう状況がありうるのかというふうに考えています。

これは東京オリンピックが成功した後に出てくる話であって、現段階では、ジェノサイドだから、北京オリンピック云々というふうにはならない。つまり北京オリンピックって来年の2月位の話ですから。いずれにしてもジェノサイド認定というのはどうなるかと。これ大変個人的には注目しています。つまり北京オリンピックをやるかやらないか。成功するか失敗するかによって、習近平さんの、2022年秋の党大会での総書記3期目がなるかどうか。微妙に党内基盤が変わってきますよね。かりに北京オリンピックが大失敗して、国際社会からつまはじきにあってボイコットされたということになった場合、中国国内は混乱するであろうということですね。

3番目、今昔の東西冷戦の時代というのは、アメリカとソ連が戦っていた時代というの

は、最前線はヨーロッパにある。ベルリンが最前線に当たる。いまはどうか。

アメリカ新冷戦の相手は中国と仮定すると、その最前線が台湾であり、琉球であり、尖閣であり、日本本土であるということはもうまちがいないことです。ですから我々は完全に有事の中にある。東西冷戦の時代のベルリンと同じくらいの厳しい状況にあるという風に認識しなければならないということです。

4番目、ただし、バイデンがどこまで本気なのか、バイデンの息子ちょっと悩ましいですよね。ハンター・バイデンどうなりますかね。あるいは、G7でもヨーロッパとの温度差というのはかなりいわれている。ちょっと悩ましいところです。

5番目、ただし、期待できるのは、日米豪印4カ国のクワッドとか、11カ国のPPPにイギリスが参加したいよというふうに言って、これは日本にとってなんという素晴らしいニュースなんでしょうか。

例えばこれを東西冷戦と比較すると、仮に東西冷戦の時のヨーロッパの状況を考えた時に、ヨーロッパの安全保障、経済安全保障を考えた時に、NATOとEUという東西冷戦の時に枠組みがあったとすると、それに対するのがクワッドとTPPというのが新冷戦の時代の新しい枠組みになっていけばいいなというふうに考えています。当然ここには、台湾も加わっていただくことを強く希望しています。

TPPと経済問題としては、台湾の機能は非常に強いわけですし。クワッド及び、それから、アングロサクソンの情報機関の連合であるところのファイブ・アイズというのがございませぬけれども、ファイブ・アイズにも日本と台湾が手を組んでちょっと仲間に入れてっていう感じでいけばとそれなりに役割を果たせるんじゃないかなと。日本単体でいっても台湾単体でいっても、ちょっとお宅たちは、ちょっと違いますよね。日本と台湾が合体していけば相当食い込めるんじゃないかなと思います。

6番目、あと経済の話ですけど、国際金融センター、香港の国際金融センターあるいは香港ドルの地位はどうか。ちょっとわかりません。香港ドルのUSドルペッグというのが今後も続くのかどうかなんともわかりません。いずれにしても、相対的に日本とか台湾とかシンガポールというものが金融センターとして浮上してくる可能性がある。その時に我々はどうしたらいいんですか。例えば日本と台湾とが協力して新しいマーケットをつくりましょうというような提案ができるのかどうか。指をくわえて見てるだけでシンガポールにとられるのか。

それから7、8番目、中国の不良債権の問題とかサプライチェーンマネジメントの話とか資本規制の問題とか、実は中国経済って、私上海に10年間幽監されておりましたけど、その間にいろんな方から「中国経済いつ崩壊するんですか。」「まもなく崩壊します。」って。お前、崩壊崩壊、崩壊詐欺だって言われたことがあったんですけど、まあリスクがかなりそのマグマが強烈に溜まってきていることは間違いないと思っています。

これは鍵は不動産価格にあると思っていて、錬金術で彼らは不動産価格を維持しています。この土地は全部中国政府のものだということから始まる錬金術ですね。中国人民の不満というものがいつ爆発するか。これはよくわかりません。富士山がいつ爆発するのかわからないのとおなじことですね。

## 19 おわりに

写真だけちょっと。李登輝先生の奥さまはお元気でいらっしゃいますけれど、本当にお優しい方で、いつも李登輝さん、ご自宅では、「オーイ、ふみ」と日本語でお呼びになっているんですね。非常に可愛い奥さま、素敵な奥様。95才には見えませんよね。まだお元気なんで、なんとかお見舞いにお伺いしたいと思いつつも、亡くなってからも、弔問にも行けない、お墓参りにも行けない、お線香もあげられない、クリスチャンなんでお線香はないかもしれませんが。本当に早くコロナの収束を願っているところです。長くなりましてご清聴ありがとうございました。



本稿は、2021年6月19日に開催した本研究所第8回セミナー「2021年に急浮上した「台湾」の存在感 海峡有事に日米はどう備えるべきか」（会場：山形県生涯学習センター遊学館とオンライン）での講演を活字化したものです。（編集委員）

## 台湾高速鉄道の新幹線技術導入の経緯、運営の現状および課題

大谷昌弘

前台湾高速鐵路股份有限公司資深顧問

### 1 はじめに

台湾に高速鉄道が走っていることをお聞きになった、あるいは、すでに乗られた方も多いと思う。

しかしながら、台湾に日本の新幹線技術が導入された経緯とか、どのような仕様になっているのかはあまり知られていないように思われる。

たとえば、2021年の4月2日に台湾で特急列車が脱線、トンネルに突入、死者49名という大事故が発生した。この事故は、台湾鐵路管理局（台鐵、TRA、日本でいう在来線）の列車であり、台湾高速鐵路股份有限公司（以下「高鐵」、THSR、日本では台湾新幹線、台湾高速鉄道とも言われる）の事故ではなかった。それにもかかわらず、高名なジャーナリストがこの事故を高鐵の事故と誤解し、“高鐵は車両のみが日本製、その他の設備やシステムはフランス製なので台湾新幹線は日本の新幹線に比べ安全性が劣る”といったような事実と反する解説を行っていた。そのほかにも、筆者に“台湾新幹線が大事故を起こしたが”といった問い合わせがあったりもした。

昨年（2020年）5月に、不肖、筆者が技術考証を担当させていただいたNHKと台湾の公共テレビ台との共同制作になる「路（ルウ）～台湾エクスプレス～」という高鐵の建設を背景としたドラマが放映された。これにより、台湾に日本の新幹線が走っていることを知っていた方も多いかと思う。しかし、このドラマはどちらかというと日本女性と台湾青年の恋愛的なストーリーが中心であり、技術的な部分はあまり描かれていないという評価も多かったようである。

このようなことから、高鐵への日本新幹線技術の導入経緯、高鐵の基本的仕様について改めてご理解を賜りたく寄稿する次第である。

（なお、本稿は2021年5月にニッポンドットコムに投稿した記事に、その後の状況等を加筆、訂正したものであることをお断りしておく。）

### 2 高鐵の概要、運営状況

日本の新幹線あるいは高鐵の安全システム、運行管理、運営等に長く関わってきた筆者から見て、高鐵の安全性については日本の新幹線技術を基本としており決して新幹線に劣るところはなく、むしろ新幹線よりも安全、正確に運転されていると申し上げたい。

高鐵は台北市東部の南港駅と高雄市北部の左營駅を結ぶ約349km（東海道新幹線のほぼ東京～名古屋の距離）を最高速度300km/hで走行、最速タイプの列車で台北～高雄を90分余で運転している。新型コロナ禍の影響がなかった2019年には1日平均18万人の輸送人員があったが、同時期の東海道新幹線（路線長約515km）では約48万人、山陽新幹線（同約554km）

では約23万人であったことから、路線長約350kmの高鐵の健闘ぶりがよくわかると思う。

しかしながら、台湾でも新型コロナの影響が広がった。コロナを抑え込んだと言われた中でも2020年の高鐵の1日平均輸送人員は15.6万人に低下した。さらに、今年5月中旬に突然のように感染者が急増し、台湾政府の強力なコロナ対策が実施された結果、6月の1日平均輸送人員はわずか1.8万人になっている。その後、感染者は徐々に低下してきており、政府の警戒レベルが3級から2級に引き下げられてはいるが、高鐵にとってはしばらくは厳しい状況が続くように思う。

### 3 日本の新幹線技術導入の経緯

台湾では南北を結ぶ高速鉄道の必要性は1980年頃以降、活発に議論されていたが、1987年に行政院が交通部に高速鉄道実用化調査を指示したことから具体的な建設計画が始動した。その後、政府は財政負担リスクを考慮し、高速鉄道はBOT（\*）プロジェクトとして民間企業に任せることとし、受託企業を募集したところ、最終的に①台湾高速鐵路連盟（フランス、ドイツを主体とした欧州企業連合が支援）と②中華高速鐵路連盟（JRの支援を受けた日本企業連合が支援）の2つの企業集団が残ることとなった。

\*BOT Build（建設）、Operation（運営）、Transfer（政府への返還）による建設・運営方式

この受注競争では、日本企業連合は、鉄道システム全体の中のいわゆるインフラ外の部門「E&M（機械・電気システム）——車両、信号、電力、コンピュータ運行管理などの基幹部門」の設計、製造・納入、試験、スタッフ教育等の部門の受注を目指したものである。

1996年9月に政府は両連盟から提出された建設費見込み等を勘案し、①の台湾高速鐵路連盟に優先交渉権を与えることになり、日本側は韓国高速鉄道に続き欧州勢に敗れることになった。筆者はこの決定の際、日本連合支援のために台湾にいたが、新幹線の実績から受注は確実と見ていただけにひどく落胆したことを覚えている。

しかしながら、①の台湾高速鐵路連盟の資金調達計画が難航したこと、コスト削減問題で連盟内での確執が生じたこと、途中解約や銀行融資に対する政府保証をめぐる政府との交渉が難航したこと等から政府と同連盟の正式契約が再三延期されることになった。

こうした中、1998年6月3日ドイツ高速鉄道ICEが車輪の不具合により脱線転覆、死者101名という大事故を起こした。この事故に対し、台湾では欧州方式の高速鉄道に対する安全性への疑問が生じた。これを受け、いったんは敗れた日本企業連合は再挑戦のチャンスが生まれたと考え、②の中華高速鐵路連盟を解散した後、①の台湾高速鐵路連盟が設立した高鐵への受注活動を開始し、1998年11月に高鐵は日本企業連合とJRに対しプレゼンを要請することになった。また当時の総統李登輝氏や台湾長栄グループ総裁張氏などの示唆もあり、新幹線技術採用への気運が高まることとなった。しかし、この動きに対抗し、欧州企業連合は新幹線の採用を阻止すべく大々的ネガティブキャンペーンを展開し、受注競争は再度激しくなった。

さらに、1999年9月21日台湾中部南投県を震源とする集集地震が発生し2400名以上の人命が失われる大災害が発生した。地震をほとんど経験したことがないフランスやドイツの鉄道システムに比較し、地震、台風、豪雨など台湾に多い自然災害に対し、経験の豊富な新幹線技術に対する評価が高まり、1999年12月28日にE&M部門は日本企業連合が逆転で優先交

渉権を獲得することとなった。ただし、日本連合受注の条件として、高速鉄道の建設、運営の経験のあるJRの支援を受けることが要求されたことは特筆に値すると思うところである。

日本企業連合は台湾新幹線株式会社（TSC）を立ち上げ、高鉄との間での正式な契約を2000年12月に締結した。

他方、E&Mを受託したことと並行して、線路構造物の建設、駅舎の建設、レールの製造・敷設等にも多数の日本企業が参加することとなった。

#### 4 高鉄仕様の検討、設計、建設の状況

日本企業連合が受注し、高鉄の仕様、運営体制等の検討を開始したわけであるが、日本側は、新幹線技術をそのまま適用することが、安全性、信頼性、工事費低減、工期順守上必須と考えていたが、事はそのようには進まなかった。

日本連合受注後も、高鉄には多数の欧米人技術者が残留したうえ、その後も多くの欧米技術者が採用されたため、日本と欧米の技術者の間で哲学的、技術的な論争が果てしなく展開されることになった。筆者は日本連合支援のためこれら論争に加わったが、鉄道の安全性、正確性などについて欧米技術者との意見の相違を強く感じたところである。

また、装置の試験や列車の試運転にも立ち会ったが、日本での仕事の進め方など日本では考えられないユニークな出来事が実に多くあったが、これらについては別の機会に述べることにしたい。

結局、出来上がったシステムについて一言で言えば、日本の新幹線技術の土台の上に、必要性がさほどあるとは思われない欧米的な機能、設備等が付加的、冗長的に構成されたものになったように思うところである。

#### 5 今後の主な課題

##### 次期車両問題

昨年末、台湾や日本のニュース報道で、今後導入したいとした日本製車両が高すぎるため高鉄は発注作業を停止したといった情報が流れた。確かに1編成（12両）50億元（約190億円）は現在高鉄で使用されている700Tの1編成約17億元（約65億円）に比較し高額であるように思うが、このような情報がリークされたことは交渉戦術の一環であるように思う。また、当初は、新車両の試験やスタッフ教育等もメーカーが行うフルターンキー契約であったことも要因ではなかったかと思う。その後聞くところによると、かなり価格は下がってきているようである。

しかしながら、そうは言っても、700T車両の設計、製造は今からおよそ20年前のことであること、JRが国内で調達する車両自体も最新のN700S車両は20年前の700系車両の1.5倍くらいになっていること、次期車両にも高鉄独自の機能、設備等が多くあること、発注編成数が少ない場合、編成ごとに割り当てる設計費、製造費、試験費等の割合が大きくなること、日本国内で製造するため輸送費が必要なことなどからどうしても高くなるを得ない事情もあると思っている。

また、安全システムの要である信号システム等は地上装置との密接な連携が必要であり、参入メーカーは車両だけでなくこれらの技術・ノウハウの所有が必要であるように思う。

次期車両発注のその後の状況であるが、高鉄と日本の車両メーカーの間での正式交渉は相変わらず停止したままのことであるが、高鉄トップがJR幹部にアプローチしてきたという情報もあり、高鉄側が振り上げた拳をどう収めたらよいか探っているように思われる。

これらのことから、筆者としては、いずれ交渉が決着し、台湾にN700Sが走る日が来るのではないかと考えている。

### 設備等更新

高鉄は開業して15年目に入っている。高鉄の日常の業務管理を見て、もともと信頼性の低い装置やシステムをなんとかやりくりしているといった状況がみられる。さらに、装置、設備、システム等について老朽化、性能陳腐化のため設備更新の時期も迫っている。高鉄では日本の新幹線にはない付加的な機能、設備等が多く、しかも、それらが複雑に組み合わせられている。今後の設備更新に当たっては、高額にはなるが現在の仕様のまま更新するか、あるいは機能を整理して日本の設備仕様に合わせた設備等に更新するかという課題がある。検討期間、技術スタッフの体制等の課題も大きいように思う。設計時に“台湾オリジナル”という主張がしきりになされたが、設備更新の場合これがデメリットになることもあるということではないか。

### 路線延伸

2019年9月に台湾政府が高鉄の屏東延長を発表した。工費554億元をかけて2029年末に現在の高鉄左営駅から高鉄屏東駅まで17.5kmを延伸、開業する計画であり、今年（2021年）3月には着工したいとのことであったが、現時点で着工したという情報はない。

しかし、この8月には延伸工事のコンサルティングをCECI（台湾世曦工程顧問股彬有限公司）に発注したという情報もあり、少しずつ計画が進捗しているようである。ただし、肝心の運営会社である高鉄の部内では、現行設備やシステムへの影響、改修などについての議論が深まっていないことが気になることである。

## 6 おわりに

筆者が20数年にわたり関与してきた高鉄が台湾で必要不可欠な交通機関として利用されていることに改めて深い感慨を覚える。高鉄に関わってこられた多くの関係者、また、日々高鉄運営に当たっておられる高鉄のスタッフの方々に敬意を表す次第である。今後とも安全、正確、快適な輸送サービスが遂行されること、一刻も早く新型コロナ禍の影響を脱し、高鉄がますます発展していくことを心から願っている次第である。

（2021年8月5日原稿受理）

大谷昌弘先生には、2021年1月9日の第7回セミナー（オンライン）「台湾高速鉄道の建設と運営—NHKドラマ『路』で触れられなかった事実—」にてご講演いただきました。（編集委員）

【資料紹介】

2021 年上半期に台湾で可決された法律一覧

高橋孝治

台湾（国名としては「中華民国」。以下も「台湾」という）の立法機関である立法院でも、日本の国会と同じように日々、法律の改正や新しい法律の制定が決議されている。台湾の政策を検討するに当たっては、これらの改正法や新法なども押さえておく必要がある。ここでは、台湾の政策研究の資料として、2021 年上半期（1 月～6 月）に台湾の立法院で制定、廃止、改正などが決まった法律の一覧をまとめる。なお、本稿における [ ] は、直前の単語の中国語原文を意味する。

法律名 (法律名の日本語訳)	立法院可決日/公布日/施行日 總統令番号	概要
公務人員考試法 (公務員試験法)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038681 號	「試験監督法 [監試法]」廃止に伴い、第 26 条（試験監督法への委託条文）を廃止。
監試法 (試験監督法)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038741 號	公務員試験の監督を監察委員が行うこととなったため法そのものを廃止。
典試法 (国家試験法)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038671 號	「試験監督法 [監試法]」廃止に伴い、第 10 条（試験監督委員に関する規定）を廃止。
專門職業及技術人員考 試法（専門職および技 術師試験法）	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038711 號	「試験監督法 [監試法]」廃止に伴い、第 21 条（試験監督法への委託条文）を廃止。
勞工保險條例 (労働保険条例)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038701 號	労働保険の給付金が差押えなどの対象外となるよう第 29 条を改正。
勞資爭議處理法 (労使争議処理法)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038661 號	決裁委員のうち 1 人から 3 人は常務決裁委員とし、職権は独立して行使することと、決裁書を公開することとした改正。
商港法 (商業港法)	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038731 號	「公有商業港 [公有商港]」の文言を「商業港区内各施設 [商港区域内各項設施]」に修正（第 72 条）。
船員法	4. 13/4. 28/4. 28 華總一義字第 11000038721 號	船員保険部分に関して「障害 [殘廢]」の文言を「職業能力の喪失 [失能]」に修正など（第 50 条、第 54 条など）。



所得税法	4. 9/4. 28/7. 1 華總一經字第 11000039201 號	税制改革により、家を持っている期間の長さに応じて税率を変更する改正。
工會法 (労働組合法)	4. 13/4. 28/7. 1 華總一義字第 11000038691 號	労働組合の理事候補、監事候補を少なくとも一名以上置かなければならないという規定の創設 (第 17 条)。
勞工職業災害保險及保護法 (労働者職業災害保險および保護法)	4. 23/4. 30/5. 1 華總一義字第 11000040931 號	労災に遭った者およびその家族へのより手厚い保障を行うための新法。
森林法	4. 20/5. 5/5. 5 華總一經字第 11000041431 號	違法伐採の重罰化のための改正 (第 50 条、第 52 条)。
都市更新條例 (都市改良條例)	5. 14/5. 28/5. 28 華總一義字第 11000041421 號	都市改良事業計画の公表が、新聞や電子データでできるようにする改正 (第 32 条)。
監察院各委員會組織法	4. 27/5. 12/8. 1 華總一義字第 11000043921 號	これまでに監察院内にあった国防委員会を外交委員会に統合し、社会保障および衛生環境委員会を新設する改正 (第 2 条)。
交通部民用航空局飛航服務總臺組織條例 (交通部民用航空局飛行サービス総台組織條例)	4. 27/5. 12/5. 12 華總一義字第 11000043911 號	設置されている役職者数の上限変更の改正 (第 6 条)。
交通部民用航空局組織條例	4. 27/5. 12/5. 12 華總一義字第 11000043901 號	設置されている役職者数の上限変更の改正 (第 6 条)。
國軍退除役官兵輔導委員會組織法 (国軍退役軍人輔導委員會組織法)	4. 27/5. 12/5. 12 華總一義字第 11000043891 號	退役軍人の外国の退役軍人との交流を強化するための改正 (第 4 条の 1)。
文化藝術獎助及促進條例 (文化芸術補助および促進條例)	4. 30/5. 19/5. 19 華總一義字第 11000046561 號	これまでの「文化芸術補助條例 [文化芸術奨助條例]」では知的財産の保護が弱く、文化芸術に従事する者の給与が低いなどの問題があったため、法律名を変え、全面改正した。
動物保護法	4. 27/5. 19/5. 19 華總一經字第 11000046551 號	動物虐待の定義を変更し、ペット繁殖業者などに対する業務評価の公開を義務づけるなどの改正 (第 1 条、第 2 条、第 22 条の 1 など)。
國立臺灣歷史博物館組織法	5. 11/5. 26/未定 (行政院命令により決定) 華總一義字第 11000048871 號	台湾の歴史や民俗文化に関する資料の収集、整理、保存、研究、展示などを行う博物館の業務を法律上のものとするための新法制定。

國立臺灣文學館組織法	5. 11/5. 26/未定 (行政院命令 により決定) 華總一義字第 11000048881 號	台湾文学の研究、保存、展示などを行う文学館の業務を法律上のものとするための新法制定。
水利法	5. 7/5. 26/5. 26 華總一經字第 11000049221 號	罰則の強化のための改正 (第 92 条の 2、第 92 条の 3 など)。
都市計畫法	5. 4/5. 26/5. 26 華總一義字第 11000047771 號	地方制度法制定による文言の改正 (第 4 条、第 6 条など)。
教育部組織法	5. 11/5. 26/5. 26 華總一義字第 11000048911 號	外国滞在職員に関する規定の増設 (第 6 条)。
高級中等教育法	5. 11/5. 26/5. 26 華總一義字第 11000049231 號	高等学校の構内会議のメンバーの性別比率に関する規定と学生代表の比率について規定の増設 (第 25 条)。
保險法	5. 4/5. 26/5. 26 華總一經字第 11000047761 號	保険業を営む場合の規制の強化のための改正 (第 137 条、第 137 条の 1 など)。
貨物稅條例	5. 7/5. 26/5. 26 華總一經字第 11000048891 號	貨物の輸出入に関する税制のうち、みなし出庫の規定の増設など (第 2 条、第 4 条など)。
社會秩序維護法 (社会秩序維持法)	5. 7/5. 26/5. 26 華總一義字第 11000048901 號	違反した場合の罰則規定の改正 (第 32 条、第 50 条)。
都市更新條例 (都市改良條例)	5. 14/5. 28/5. 28 華總一義字第 11000050231 號	耐震基準を満たさない建築物に対する規制の増設や容積率に関する規定の改正 (第 57 条、第 65 条)。
中華民國刑法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000050241 號	危険運転致死傷罪において、無過失だった場合に減刑もしくは刑の免除ができる旨の規定の増設 (第 185 条の 4)。
國家重點領域產學合作及人才培育創新條例 (国家重点領域產学連携および人材育成想像條例)	5. 14/5. 28/5. 28 華總一義字第 11000050211 號	国立大学が技術研究で成果を出すために、ならびに産業の発展の基礎を気づくために企業が出資をして学術界の研究および人材育成を活性化させ、産業競争力を上げるための新法制定。
國家中山科學研究院設置條例	5. 18/5. 28/未定 (行政院命令 により決定) 華總一義字第 11000050221 號	業務評価をする者の性別の比率については規制や本院の職員の権利などについては軍人に関する規定を準用する規定の増設など (第 21 条)。
嚴重特殊傳染性肺炎防治及紓困振興特別條例 (重大な特別伝染性肺)	5. 31/5. 31/5. 31 華總一義字第 11000052351 號	新型コロナウイルス感染症対策の予算の増額のための改正など (第 11 条、第 19 条)。

炎防止および救援振興特別条例)		
預算法 (予算法)	5. 18/6. 9/未定 (行政院の決定による) 華總一經字第 11000052771 號	公共事業のための予算の編成をインターネットなどで公表可能とする改正 (第 62 条の 1)。
長期照顧服務法 (長期介護サービス法)	5. 18/6. 9/6. 9 華總一義字第 11000052741 號	長期介護サービスを提供するにあたって、その機器や業務評価に関する規定の改正および増設 (第 6 条、第 8 条の 1 など)。
住宅法	5. 18/6. 9/6. 9 華總一義字第 11000052751 號	社会的弱者に対する住宅供給要件の改正 (第 3 条、第 4 条など)。
道路交通管理處罰條例	5. 21/6. 9/6. 9 華總一義字第 11000052961 號	違反時の罰則の強化などの改正 (第 10 条、第 29 条)。
中華民國刑法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000052971 號	強制わいせつをした際に、撮影、録画などをし、それらを伝播、頒布した場合の罰則の強化の改正 (第 222 条)。
公共債務法	5. 18/6. 9/7. 2 華總一經字第 11000052761 號	中央および直轄市の債務発行可能額の改正 (第 12 条)。
國防部組織法	5. 21/6. 9/未定 (行政院命令により決定) 華總一義字第 11000052941 號	國防部本部および次級軍事機関の所管業務の一部削除 (第 2 条、第 6 条)。
國防部參謀本部組織法	5. 21/6. 9/未定 (行政院命令により決定) 華總一義字第 11000052951 號	國防部參謀本部の所管業務の一部削除 (第 2 条)。
國防部全民防衛動員署組織法	5. 21/6. 9/未定 (行政院命令により決定) 華總一義字第 11000052931 號	國防部が軍事動員するための全民防衛動員署を設立するための新法制定。
太空發展法 (大空發展法)	5. 31/6. 16/未定 (行政院命令により決定) 華總一義字第 11000055601 號	人工衛星などの計画もあり、台湾における領空での活動に関して規制するための新法制定。
獸醫師法	5. 21/6. 16/6. 16 華總一經字第 11000054061 號	獸醫師に対する違反の際の罰則の強化の改正 (第 11 条、第 28 条など)。
行政訴訟法	5. 31/6. 16/未定 (司法院命令により決定) 華總一經字第 11000055331 號	書状の記載事項の変更などの改正 (第 57 条、第 59 条、第 73 条など)。
刑事訴訟法施行法	5. 21/6. 9/未定 (行政院の命令により決定)	刑事訴訟法改正による経過措置について規定を増設 (第 7 条の 13)。

	華總一義字第 11000055301 號	
刑事訴訟法	5. 21/6. 9/未定 (行政院の命令により決定) 華總一義字第 11000055351 號	司法院釋字第 791 號解釈による違憲判断により、婚姻妨害罪は配偶者のみが告訴できるとの規定を廃止など (第 234 条、第 239 条、第 348 条)。
中華民國刑法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000055341 號	姦通罪 (第 239 条) の廃止。
消費者債務清理條例 (消費者債務清算條例)	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000055371 號	消費者の債務に対する保護の強化の改正 (第 43 条、第 81 条など)。
保安處分執行法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000055361 號	保安處分の執行場所に、法務部の他に必要に応じて法務部の許可を得た行政院と協力する機関を追加するなどの改正 (第 2 条、第 15 条)。
民事訴訟法施行法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000055321 號	民事訴訟法改正による経過措置について規定を増設 (第 4 条の 7)。
民事訴訟法	5. 31/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000055311 號	訴訟費用の軽減もしくは免除について規定を増設 (第 114 条の 1)。
高級中等學校建教合作 實施及建教生權益保障 法 (高級中學校建設・ 教育合同實施および建 設・教育權益保護法)	5. 21/6. 16/6. 16 華總一義字第 11000054051 號	審議委員を受託される者に関して改正など (第 4 条、第 9 条、第 11 条など)。
土地稅法	5. 21/6. 23/6. 23 華總一經字第 11000056481 號	土地所有の際の課税などについて改正 (第 28 条の 2、第 30 条など)。
傳染病流行疫情嚴重期 間司法程序特別條例 (傳染病流行の重大な 期間の司法手続き特別 條例)	6. 18/6. 25/6. 25 華總一義字第 11000058791 號	新型コロナウイルス感染症拡大下の司法手続きについて新法制定。
外國專業人才延攬及僱 用法 (專門的 외국인募 集および雇用法)	6. 18/7. 7/未定 (行政院の決定による) 華總一經字第 11000060901 號	專門的外國人の雇用に関して全面改正。

(2021 年 8 月 1 日原稿受理)

## 【特別寄稿】

# 新型コロナ肺炎ワクチン接種、本院の取り組み

洪有錫

医療法人社団ダイワソウ会穂来彩クリニック

本院が新型コロナ肺炎ワクチン（以下コロナワクチン）の接種を始めてから、すでに三か月半が立ちました。初接種は、5月21日でした。

一昨年の2019年末、中国の武漢市で発生しその後、瞬く間に世界的パンデミックになった新型コロナ肺炎に対するワクチンについては、約1年で早くも欧米ではBNTファイザー製含め数社のコロナワクチンがEUA(緊急使用許可)で認可されていた。従来、ワクチンの開発は10年以上かかるのは珍しくなく、十分の一の時間で成し遂げたので、アメリカでは「ワープスピード」と称されていた。昨年末12月から、アメリカやイスラエルで接種が始まっていたので、本院はほぼ半年後のスタートでした。

本院の所在地は、墨田区の北部地域。東日本大震災が起こった2011年の11月から、主に墨田区を中心とする診療圏で訪問診療を提供してきました（図参照）。墨田区全体で65歳以上の高齢化率は22.1%、後期高齢化率11.6%。北部地域は、それぞれ29.2%と15.8%。区内でも、高齢者が一番多く住む地域。

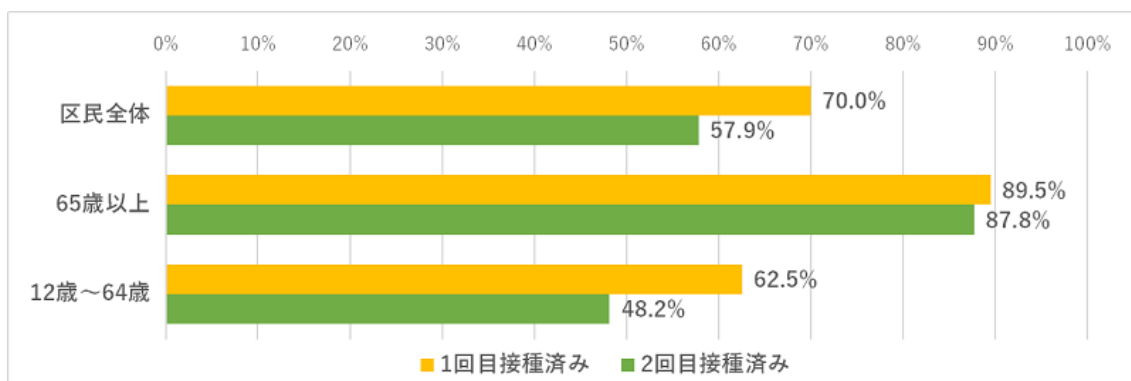


墨田区の接種初日は4月17日。集団接種の予行演習をもかねた初接種は、区内の医療従事者が接種対象。もともと国の計画では、医療従事者の接種は都道府県が行い、市区町村は住民接種を担当することになっていた。墨田区はあえて、高齢者の枠を使い、医療従事者から

接種を開始した。医療提供者に感染防御の鎧を先に着せ、今後の活躍を期待する行政の配慮でした。

筆者も一回目の接種は4月17日、二回目は三週間後の5月8日でした。実質集団接種であったが、個別接種用のファイザー製ワクチンの接種を受けました。副反応として、局所の発赤、腫脹、熱感、手の挙上制限などは、すべて接種部位の周辺に止まりました。しかも、二回目の方は、一回目より副反応やや増強した程度。おかげで、今後の接種対象にあり得る副反応を事前に実体験できました。のちのち、これは副反応の説明にかなり役に立てました。





8月28日現在速報値では、墨田区の接種率は上記のグラフ通り。高齢者接種率は90%にも上り、ほぼ終了。12歳から64歳の二回目の接種率も50%前後。墨田区のコロナワクチン接種行政の評判が高く、先日(8月26日)菅総理大臣が視察や激励に本区を訪れました。西塚至保健衛生担当部長がメディアで強調していたが、1) 高齢者枠で医療従事者先行接種、2) 全年齢層の接種券を早期送付、3) 集団接種は区直営、4) 危機モードでの割り切り等施策が奏功したと思う

本院の接種対象は、集団接種と個別接種の希望者。集団接種は、区内の医師会員が接種会場に向き、現場の接種に協力するもの。院内の個別接種が本格化する前の6月まで、本院関わった会場は、墨田区役所、旧墨田小学校体育館跡地、それに両国国技館でした。いずれも、被接種者が順番に立ち替わり接種を受ける「クリニック方式」でした。台湾でも評判になりすぐ取り入れられた「宇美式」(回転いすで廻り一列に座って並ぶ被接種者を接種)ではなかった。



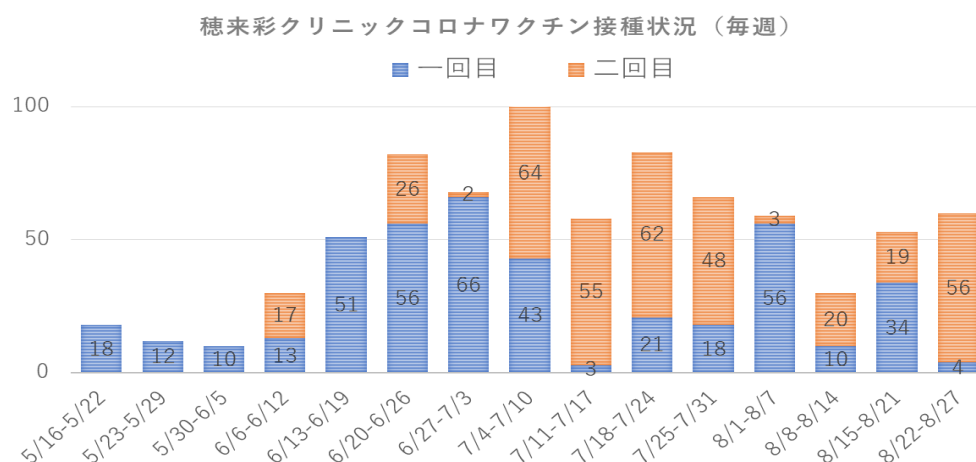
すみだリバーサイドホール1階ギャラリー(区役所に併設)でのワクチン接種の様子

本院は常勤二名、非常勤一名のミニチュアクリニック。この間、午前は普段の訪問診療、午後以降はワクチン接種の二部制を組みました。日によっては、夜10時までワクチンの接種をしていた。いささか社会貢献をした達成感があるのも、ひとえに職員の頑張りのおかげ。

本院は常勤二名、非常勤一名のミニチュアクリニック。この間、午前は普段の訪問診療、午後以降はワクチン接種の二部制を組みました。日によっては、夜10時までワクチンの接種をしていた。いささか社会貢献をした達成感があるのも、ひとえに職員の頑張りのおかげ。



以下、かいつまんで本院のコロナワクチン接種の概況を報告します（グラフ参照）。



結論的に言うと、本院が運営主体の個別接種は、接種回数の大部分を占めました。その内訳は、1) 訪問診療とその他関係業種、2) 行政要請のワクチン巡回接種、3) 電話及びネット予約者。

接種に性差はなく、男子 215 名、女子 214 名でした。墨田区在住の方は 67%、住所地外接種届を使い本院で接種を受けた方は計 33% でした（墨田区外で東京都在住の方は 23%、東京都以外の方は 10%）。国籍も、日本人（383 名）、台湾人（14 名）、韓国人（4）、中国人（25 名）、その他（3 名）など多国籍。

最初の 5 月、在宅患者を優先にしました。当初、行政のワクチン供給も接種も慣らし運転モードで、敢えて接種回数を増やさず、週 10 回から 30 回程度の接種回数。6 月以降、10 週連続週 50 名の接種実績をキープ。特に、7 月 4 日から 10 日までの週は、最高 107 回の接種。しかし、政府のワクチン確保に影響を受け、本院も 8 月から毎週 60 人分のワクチンしか提供されなくなりました。サービス提供の一環として、訪問診療の業務提携を反映して、コロナワクチン接種も在宅患者だけでなく、患者家族、訪問介護事業、IT 関係、クリニック衛生維持の地元建築業やクリーニング業等業種に接種対象を広げていた。行政要請のワクチン巡回接種は、1) 普段医療に繋がっていないか、あるいは 2) 訪問診療の医師がワクチンの接種やらない、二種類の高齢者が、接種対象でした。なお、本院はこの 11 月で開院満 10 年になるが、日頃の訪問診療に対する信頼感が、コロナワクチン接種の支えになりました。電話及びネット予約者は、普段外来受診したことはなく、ほぼワクチン接種がきっかけでした。近所住まいでも、本院の存在さえも知らない人も多く、コロナワクチン接種は本院と近所住民の距離を縮めたと思います。

おりしも、デルタ株による世界的パンデミックを受け、アメリカでも三回目のブースター接種は、9 月から施行されます。国内でも年末からブースターが始まる模様で、本院今後の接種状況をまたの機会に報告したいと思います。

（2021 年 9 月 4 日原稿受理）

【連載】

台湾随想1

## 台湾の大学

中澤信幸

私は2013年9月からの1年間、台湾・桃園にある私立大学の「応用日語学系」（応用日本語学科）に研究員として所属し、そこで日本語教育と台湾語について研究していた。その頃書き溜めていたものを、今改めて世に問うてみることにしたい。

\* \* \* \* \*

さて、その台湾の大学であるが、日本の大学とは違うところが多い。（もちろん同じところも多いのであるが、どうしても違うところの方が目立ってしまう。）これは挙げればキリがないのであるが、その一つとして「学生が何を学ぶか」というのがある。

台湾には「応用日語学系」という、独特の学科がある。まずは日本語を身に付け、そして日本のいろんなことを学び、研究するのである。入学すると、1年生から日本語をみっちり叩き込まれる。だから3年生にもなると、みんな日本語がペラペラである。その上で、日本の社会・文化・政治など、さまざまなテーマについて学んでいく。だから「応用」なのである。

かたや、日本の人文系学部の場合（例えば私の大学では）、英語専攻や中国語専攻の学生でも、英語や中国語がペラペラではない学生の方が多い。別にそれが悪いというわけではない。ただ、台湾の大学教育と比べると、「いったい何やってるの？」とも言われかねない状況である。

日本の場合、大学は長らく「研究をする場」だった。学生は1・2年生のうち「教養」を身に付け、3年生からは「専門」に没頭し、4年生になると卒業論文を書く。ちなみに外国語は「教養」の一部。明治時代には「専門」の授業は「お雇い外国人」が行ったから、そのためにも外国語は必須だった。が、（これも日本の先人たちの成果なのだが）現在ではほとんどの授業は日本語で行われる。だから、どうしても外国語を身に付けなければならない状況ではなくなった。このような経緯があるものだから、大学で「語学能力を付けさせよう」という話になると、すぐに「大学は研究をする場であり、単なる語学学校ではない」という反論が出てくる。もちろん、日本の大学も悪いところばかりではない。いわゆる「教養」を重視することで、幅広い知識を身に付けた学生を育てているし、研究能力だって鍛えられている。（ノーベル賞受賞者の数がそれを証明しているではないか！）ただ、日本の大学と台湾の大学とは「何を学ぶか」が違うのである。あえて言うなら、台湾の大学の方が目的ははっきりしている。「応用日語学系」なら、とにかく日本語を身に付けるのが目的なのである。その意味では、日本の人文系学部は目的があまりにも曖昧である。

今、日本の人文系の学生は就職活動で苦戦している。理由は簡単で、法学系、経済学系、



そして理系の学生と比べて、「自分が何を学んでいるか」がはっきりしないからである。今まではその「曖昧さ」が幅広い「教養」となり、研究能力の育成へとつながるとされてきた。しかし、それが時代に合わなくなってきた、と言わざるを得ない状況なのである。人文系の今後のあり方を考える上で、台湾の大学は一つのモデルになり得るかも知れない。

他の違いとしては、台湾の大学生はとにかく元気がいい。そしてイベントには積極的に参加する。私も学生のイベント（それもサークルとかではなく、学科のイベント）に参加してみたが、とにかくみんなで一斉に大声を張り上げるので、圧倒されてしまった。本当に楽しそうだなあ、と実感。（日本の大学生が、学科のイベントにここまで積極的になるだろうか？）ちなみに、日本でイベントの定番といえば「飲み会」であるが、こちらではそれはない。いや、「飲み会」らしきことはするのだが、肝心のお酒がないのである。どうも「みんなでお酒を飲みに行く」という習慣がないらしい。一つには、バイクで通学する学生が多いということもあるだろうが、それにしても不思議である。「なんでお酒飲まないの？」とってしまうあたり、私はやっぱり日本人である。

(2021年8月1日原稿受理)

【活動報告】

2020年～2021年

2021年

6月19日(土) 第8回セミナー (ハイブリッド: 山形県生涯学習センター遊学館とZOOM)

- ・ 2021年に急浮上した「台湾」の存在感  
海峡有事に日米はどう備えるか 河崎眞澄 (産経新聞編集局特別記者  
兼論説委員)

1月9日(土) 第7回セミナー (オンライン): 台湾高速鉄道の建設と運営

- ・ 台湾高速鉄道の建設と運営——NHKドラマ「路」で触れられなかった  
事実——大谷昌弘 (前台湾高速鐵路股份有限公司資深顧問)

2020年

8月22日(土) 第6回セミナー (オンライン): 台湾におけるコロナウィルスの現状と今  
後

- ・ AIoTと医生物複合科学技術のR&Dから見た台湾の新型コロナウイルス  
感染症の防遏及び今後の展望 洪有錫 (穂来彩クリニック)
- ・ 現地在住者・取材者の目を見た台湾と新型コロナウイルス 片倉佳史  
(台湾在住作家、武蔵野大学客員教授)

2月15日(土) 第5回セミナー (共催): 日台関係のこれから (山形大学)

- ・ 台湾総統選挙とこれからの日台関係 中澤信幸 (山形大学)
- ・ 出羽乃白箭 (デワノシラヤ) 一日台医療ツーリズムの創生—洪有錫 (穂  
来彩クリニック)

それ以前の活動については、本研究所の Facebook をご覧ください。

<https://www.facebook.com/IJTP2018/>

## 第9回セミナーのお知らせ

### 宋美齡の生涯

～蒋介石夫人としての活動から晩年まで～

講師 佐谷 静玲

株式会社イーピーシージャパン取締役、セイレイファッションフลาวースクール主宰、  
明治大学リバティアカデミー講師、日台政策研究所理事

日時 令和3年12月18日(土) 13:30～15:30(開場 13:00)

場所 京都アカデミアフォーラム in 丸の内

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階

宋美齡の100年を超える生涯を振り返ることは、激動の近代中国、台湾の歴史を学ぶこととなる。「権力を愛した」と言われ、「ドラゴン・レディ」とも称された彼女の生涯を、いくつかの逸話を交え、晩年までたどります。

参加費 1,000円(所員および高校生以下は無料)

お申し込み 下記URLにアクセスの上、必要事項をご記入ください。

<https://forms.gle/SQPTRGW9DePCZCdZ9>

※会場の収容人数の関係で、定員に達し次第募集を締め切りますので、参加を希望される方はお早めにお申し込みください。今後のコロナウイルス感染状況により予定が変更になることもあります。準備の都合上、申し込みは12月10日(金)までをお願いいたします。

## 京都アカデミアフォーラム 入館方法 (場所：新丸ビル10F)

オフィスエントランスから入館してください。商業エントランスからは入館できません。



【A】新丸の内ビルディング 外観

会場 HP 案内 (PDF 版より転載)

会場の都合上、平日以外は通常の出入り口が使用できないため、入り口が異なります。  
参加予定の方には、別途、ご案内します。

## 【会員紹介】

### 高橋孝治



新型コロナウイルス感染症拡大の影響による海外渡航制限で、台湾への調査も非常に難しい現状が続いています。しかし、現地への訪問ができないからこそ、これまでに収集した資料などを用いて、研究成果を作り出すにはよい時期であったと言えます。ここでは、この1年（2020年8月～2021年7月）の筆者の台湾に関する研究で、代表作と言える拙稿2本を紹介します。

「社会変動の中の刑事訴訟法改正——日中台比較の中の日本刑事訴訟法」

『日本研究』（85号）韓国・韓国外語大学日本研究所、2020年9月、7～44頁

「養子法、その条文と歴史的変遷の日台中比較」

『大葉應用日語學報』18期 台湾・大葉大学外語學院 應用日語學系、2021年5月、38～65頁

前者は、日本、中華人民共和国（以下「中国」）、台湾ではそれぞれ近代において、日本国憲法施行、改革開放政策開始、戒厳令解除という大きな社会変動があったが、それぞれの時期で刑事訴訟法の規定やその運用はどう変化したかを比較検討しています。日本ではこれまでほとんど触れられてこなかった台湾の戒厳令下の刑事法の運用にも言及しているので、台湾近代法制史に興味のある方は是非一読をお願いしたい。

後者は、よくある比較家族法研究の一編です。養子法を素材に、日本、台湾、中国の家族法はどのように位置づけられるかを検討しています。

学術的目新しさはありませんが、このような古典的な研究手法を用いた研究もよいのではないかと考えます

なお、後者は2020年9月27日に台湾・文藻外語大学国璽会議廳で行われた「移民時代の日本語：2020年文藻外語大学日本語学科国際シンポジウム」（筆者はzoomで参加）で口頭発表した「養子法の日中台比較」の内容を加筆修正したものです。

（2021年8月1日受理）

## 【事務連絡】

### 『日台政策研究所会報』に関するお知らせとお詫び

このたび本研究所会報創刊号と第2号に掲載した小川英郎氏の下記の投稿が多重投稿にあたることを確認しました。

投稿 臺灣の選挙に勢いで行って見た！

『台湾研究資料』84号（2020年6月17日発行）

『日台政策研究所会報』創刊号（2020年7月31日発行）

『日台稲門会会報』第21号（2021年年1月1日発行）

書籍紹介 「野嶋剛著『タイワニーズ～故郷喪失者の物語』

『台湾研究資料』84号（2020年6月17日発行）

『日台政策研究所会報』第2号（2021年3月15日発行）

当該原稿投稿者に事実関係を確認の上、臨時理事会で審議し、下記の処分と対応を決定したのでここに報告します。

- 1, 当事者の処分は「嚴重注意」とし、今後2号分の本研究所会報への投稿を禁止する。
- 2, 多重投稿された掲載文を、本研究所会報創刊号と第2号の電子版から削除する。但し、目次はそのままとし、多重投稿の旨を明示する。冊子印刷した会報については、第3号（本号）にて多重投稿の事実を掲示し、「掲載取り消し」を周知する。  
※本研究所会報は、今年、創刊号と第2号を合冊して冊子印刷し、国立国会図書館に納本しました。
- 3, 告発者とその関係団体(東京台湾の会)には、今回の件につき報告し、謝罪する。

投稿原稿に対するチェックの至らなかったことをお詫びするとともに、今後このようなことのなきよう注意いたします。

### 会費納入のお願い

一般社団法人日台政策研究所では、活動のための財源として、所員の皆様から年会費を頂戴いたしております。年会費はお一人様10,000円（一般会員）、20,000円（理事）となっております。よろしくお願い申し上げます。

本研究所の情報はfacebook「一般社団法人日台政策研究所」<https://www.facebook.com/IJTP2018/>で発信しています。更新したらメールにてお知らせします。

## 【編集後記】

一般社団法人日台政策研究所会報第3号をお届けします。まずは今回の刊行が大幅に遅れましたこと、編集委員長として深くお詫び申し上げます。

今回は、セミナーでご登壇いただいた大谷昌弘氏と河崎眞澄氏に、講演の内容をまとめていただきました。いずれの講演も一般参加者の関心が高く、ZOOMによるオンライン参加も可能にしたこともあり、盛況に終わりました。

本研究所会報は年2回の出版を予定し、電子出版で本研究所ホームページよりダウンロードできるようにしています。今後、会員の皆様のさらなるご協力を得て、内容を益々充実させていく所存です。あらためてご協力の程、お願い申し上げます。そして、このたび創刊号と第2号を合冊で冊子印刷しました。そのうちの1冊を、国立国会図書館法の納本制度に基づき、国立国会図書館に納本したことをご報告します。これにより、今後本研究所会報が正式な出版物として広く認知されることを期待します。

事務連絡でもご報告したように、今後、投稿された原稿のチェックにはさらに気をつけて参ります。

次回のセミナーは12月18日（土）東京で開催予定です。時節柄、お身体ご自愛ください。コロナ禍の一刻も早い収束を祈念します。（編集委員長 是澤範三）